

「憲法九条が侵略戦争の歯止め」

戦争体験と憲法を語り続ける 吉川 正夫さん (83歳) のお話

水原元町長の渡辺勇さん、吉川正夫さんは各地の集会で講師をしていただいています。豊栄や新津からも依頼される評判ぶりです。

私は、一九四三年四月に、仙台の騎馬部隊に入隊しました。

昭和天皇の閲兵式があるというところで、騎馬隊の馬が天皇の前を通過するときに、絶対立ち止まらせてはいけないと命令が出ていました。もし立ち止まったり、小便やふんをしたら責任をとって腹を切れと言われていたので、本当にその覚悟でいました。

四十五年三月十日、習志野の部隊にいたとき東京大空襲があり、翌日、東京で死体の収容をしたときの悲惨なことは忘れられません。新小岩付近では見渡す限り一面焼け野原で、まだくすぶっていて、黒焦げの無数の死体が重なり合うように横たわっていました。焼けたにおいや生臭いにおいが漂い、今では思い出したくない地獄模様でした。

軍隊とは運隊

私は、戦争中、三回も命を落とす危機に遭遇しましたが、運の巡り合わせで辛くも生き残ることができました。

軍隊とは運隊とも言われ、死ぬも生きるも運しだいのところでした。悲しい運がたくさんありました。私は、戦争体験から二度と悲惨で苦難の道となる戦

争は起こしてはならないと痛感しています。

日本がやった戦争は侵略戦争です。靖国神社には戦犯が祭られています。東京裁判は戦勝国が裁いた裁判だからと疑問を持つ人もいますが、冷静に客観的に考えれば、これらの人々は少なくとも侵略戦争に導いた指導者には間違いないわけですから、その人たちを含めて参拝するというのは、戦争で犠牲になった人はうかばれないことだと思います。

九条は戦争の歯止め

憲法九条があることが侵略戦争の歯止めになっていきます。日本国民の責務として何よりも守らなければなりません。九条は世界に冠たる憲法です。九条を持つからこそ世界の平和を守ることに貢献できるのです。

阿賀野の会には思想信条にかかわらず、憲法を守ることを呼びかけている会です。憲法改悪を許してはなりません。微力でも訴え、尽くし、たいと思つて、います。



◆若葉会館集會

■ホームページに寄せられた九条を守る運動への応援の声

参加者の声

- 良い集会だった。今後は若い人たちと戦争体験のある年配者との集いが必要だと思います。
- 若者に、子に孫に戦争の悲惨さを語り続けることの大切さを実感しました。
- なぜ九条が必要かを理解して、運動を広げてゆきたいと思えます。
- たった一度の人生だから天寿を全うしたいです。永遠にこの世から戦争をなくしましょう。
- このようなミニ集会を数多く開催して、九条を守る運動をもっと広げてゆきましょ。



◇「絶対憲法を改悪させないでください」

5月3日 (女子高校生より)

高校生ですが、私も憲法改正には反対です。

戦争は何があってもしてはいけないことだと思っています。戦争は何も良いことを残しません。悪いことばかりです。そして、何より怖いです。

私は、爆弾が空から降ってくる心配のほとんどない日本が好きです。日本はアメリカと違って国土が狭いですから、なおさら怖いです。

もし、親が爆弾に撃たれたら、身近かな人が死んでしまったらと考えると、本当に眠れなくなるほど怖いんです。自分が死ぬより怖いんです。

絶対憲法を改悪しないでください。お願いします。

◇「頑張ってください。応援しています」

3月12日 (埼玉在住 水原若葉町出身 41歳男性)

私たち、戦争を知らない世代にとって、戦争世代の人たちの言葉は重みがあります。価値観の多様化を超越した、本当の価値(平和)、これは私たち世代もしっかり受け継いでいかなければならないと思っています。頑張ってください。応援しています。

◆会員の皆様へ お願い

このニュースに同封して集案内のチラシを入れました。お知り合いの方に宣伝しお誘いください。